令和5年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【太田小学校】

① 目 標・策

	目 標		策
知識・技能	R4年度市学習状況調査の自校結果を受け、国語・算数の「基礎問題」にあたる問題について、正答率を2pt向上させる。	⇒	R5年度全国学力・学習状況調査の自校結果を全教職員で共有する。また、学力向上タイムでの「ドリルパーク」や「スタディサプリ」の活用を通して、基礎的な学習内容を定着させる。練習問題の時間を十分に確保し、自分で進度や学習に係る内容を調整できるよう指導する。
思考・判断・表現	R4年度市学習状況調査の自校結果を受け、国語・算数の「思考・判断・表現」において正答率を2pt向上させる。	⇒	R5年度全国学力・学習状況調査の問題から、今、求められる思考力等を全教職員が考える。また、自分の考えをまとめ、表現にする機会を意図的に設けることで、自分の考えを整理させる。授業内でのふり返りの時間を重視し、自分が学習し、できるようになったことを実感させる。
主体的に学習に取り組む態度	R4年度市学習状況調査において、「国語（算数）の勉強が好きですか」の質問項目において、肯定的な回答を5pt向上させる。	⇒	達成感を味わわせられるように個別最適な学びを充実させる。子どもたちが「学びたい。」と思える課題設定をするなど、学習計画を工夫する。また、振り返りの時間を意図的に設定し、できるようになったことに目を向けさせる。

② 全国学力・学習状況調査結果・分析

知識・技能	国語・漢字等の言語に関する問題に課題が感じられる。「言葉の特徴や使い方に関する事項」について大きく下回った。 算数：「知識・技能」に係る問題でも平均との差がみられた。 学習の基礎となる知識・技能の習得を図る。
思考・判断・表現	国語：「読むこと」に関しては、平均と大きな差はみられなかった。「話すこと・聞くこと」については、平均との差が開いていた。インタビューや意見の伝え合いなどの際、目的意識・相手意識等を明確にもたせ、体験的な学習を取り入れていく。 算数：領域としては、「変化と関係」と「データの活用」での課題がみられる。特に、「思考・判断・表現」に係る問題でのつまずきが多く、自分の考えを説明する際に、必要なデータや情報を収集し、活用するこ
主体的に学習に取り組む態度	国語・算数：全国平均、市平均ともに、本校の「教科別平均無解答率」の差が国語も算数も下回っている。「問題に最後まで取り組む。」「自分の考えを解答に残す。」という指導を継続したい。また、「学習が好きである」という肯定的な回答も低かったので、学習の楽しさを味わわせられる授業を展開できるよう改善を図る。

③ 中間期見直し（全国学力・学習状況調査結果分析後）

	目 標		策
知識・技能	変更なし	⇒	
思考・判断・表現	変更なし	⇒	
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	

④ さいたま市学習状況調査結果・分析

小3	国語、算数ともに学習の定着に二極化が見られる。国語、算数ともに市平均正答率を下回った。国語では文章の構成に関する問題、算数では四則演算、定義等に課題が見られた。 文章を書くこと、基本的な知識・技能を定着させる学習活動を行う必要がある。	小4	国語、算数ともに学習の定着に二極化が見られる。国語、算数ともに市平均正答率を下回った。国語では比較的よい結果を残したが、具体的な例を用いて説明する問題では正答率の低さが目立った。算数では四則演算、グラフやデータの読み取りに課題が見られた。
小5	国語、算数ともに学習の定着に二極化が見られる。国語、算数ともに市平均正答率を下回った。 国語では文章の構成に関する問題、算数ではデータの処理やグラフの活用に課題が見られた。	小6	国語、算数ともに学習の定着に二極化が見られる。国語、算数ともに市平均正答率を下回った。 国語では正答率が市平均付近だが、文章の構成や意図を捉えることに課題が見られた。算数では四則演算の定着は見られたが、割合についての理解に課題が見られた。

⑤ 目 標・策の達成状況

		評価（※）
知識・技能	R4年度市学習状況調査の自校結果と比べ、国語・算数の「基礎問題」にあたる問題について、正答率の向上が見られず課題が見られる	C
思考・判断・表現	R4年度市学習状況調査の自校結果と比べ、国語の「思考・判断・表現」にあたる問題について、正答率の大きな変化は見られなかった。 算数の「思考・判断・表現」にあたる問題については課題が残る。	B
主体的に学習に取り組む態度	「国語（算数）の勉強が好きですか」の質問項目において、学年や教科によって向上が見られるものもあったが、全体としては大きく変化は見られなかった。	B

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（概ね達成）C 6割未満（あと一歩）

⑥ 次年度への課題と改善策

知識・技能	定義や言葉の確認を行うだけでなく、自分の考えや振り返りを書く際にも算数的、理科的な言葉を使わせることで正しい定着を図る。学習が苦手な児童の学習が定着できるような支援、声かけを通年を通して取り組む。学習の様子によっては、前学年の内容をふり返ることも視野に入れた学習活動の工夫をする。
思考・判断・表現	文章、会話を通した説明をする機会を国語に限らず設けたり、グラフやデータについても教科横断的な学習活動が行えるような機会を増やし、くり返し学習をしていけるよう計画する。思考が単純なもので留まらないよう、「なぜ」「どうして」の問いかけをきちんと投げかけることで思考を深める経験を積ませる。
主体的に学習に取り組む態度	無解答率の多さが目立った。自信がなくても、自分の考えを残すように学習のしかたを継続的に指導していく必要がある。自己や他者を認め合うような学級指導を通して、自分の考えをノートや解答用紙に残そうとする学習姿勢を育む。 また、主体的に学習に取り組めるよう、学習が楽しい、好きだと思い、学習してみようかなという興味や関心が持てるような学習活動の工夫をする。